

議 事 録

件 名	令和元年度 第1回 久留米市男女平等推進センター運営委員会	
日 時	令和元年8月30日(金) 19:00~21:00	
場 所	男女平等推進センター210・211 研修室	
出席者	委員	小坪喜代子、黒木祥光、樋口けい子、佐藤佐和香、緒方麻美、馬場義之、 矢ヶ部秀範、伊崎より子、堀田富子、角栄子、西田修三、
	事務局	重石(男女平等推進担当部長)、酒井・鐘ヶ江・田中(男女平等推進センター)
	ワザパー	竹村、佐々木(男女平等政策課課長)、
欠 席 委 員	末崎由美子、宮里武行、守屋普久子、中島誠治	
傍 聴 者	1名	
配 布 資 料	<ul style="list-style-type: none"> ■第10期 久留米市男女平等推進センター運営委員会 委員名簿 ■令和元年度事業実施概要 ■令和元年度施設利用状況 ■講座チラシ(政策参画講座(地域版)) ■ジャーナル vol.62 ■平成30年度事業実施概要 	
議 事 内 容		
<p>1. 男女平等推進センター所長あいさつ</p> <p>2. 新任委員の紹介、委員出席の確認及び会議成立の報告</p> <p>3. 議題 令和元年度運営状況及び事業について (1) 施設の利用状況(事務局説明) (2) 事業計画及び事業実施状況(事務局説明) 説明後に【質疑応答】</p> <p>4. その他</p>		

議 事 内 容

【質疑応答】

3. (1) 施設の利用状況

- (委 員) 統計では、若い世代の相談が多い。若い世代の悩みに答えた事業として講座がリンクしているか。
- (事務局) 相談の内容で多い離婚等に関する講座や女性が抱える問題についての講座は実施している。今後は女性のあらゆる場面での参画に関する講座や働き方応援セミナー等様々な講座の受講につながるよう工夫していく必要があると考える。
- (委 員) 相談の地区ごとでは、久留米市の割合は60～70%と読み取れる。他地区の相談強化の課題に対してはどのように考えるか。
- (事務局) 周知啓発が重要。また、DV・性暴力被害者地域サポーター養成講座は、他地区からも多く参加し、それぞれの地域で活かしていただいている。
- (委 員) 女性の貧困をテーマとした講座で、電話相談は料金がかかり相談できないという話も聞いた。電話相談を無料にする考えはあるか。
- (事務局) 女性の貧困は重要な課題で昨年度もそのテーマでの講座を実施した。現在のところ検討は行っていない。他自治体の状況を含めたところで考えることが必要、無料にすることの課題等もあわせて検討する必要があると考えている。
- (委 員) 資料で、相談の地区別は市外・市内をわかりやすく表記してほしい。昨年度と比較して市内増減はどうか。
- (事務局) 表記の件は承知した。昨年度は63.5%であり、昨年度より市内の割合が増となっている。
- (委 員) 貸室利用状況で変わったことはあるか。
- (事務局) 大きな変動はない。
- (委 員) 相談件数を昨年度と比較してどうか。相談員の労働環境はどうか。
- (事務局) 平成29年度から30年度で比較すると件数は若干減少しているものの、依然として高い件数となっており、令和元年度は現時点で29年度と30年度の間の件数となっている。近年は相談内容が多様化・複雑化していると聞いている。相談員は5名体制で行っている。緊急案件で警察等につないだり、同行支援などもある。それ以外にも講座の講師、講座の企画、ネットワーク会議等の業務があり、大変な業務であることは否めない。シフト勤務で対応し、スキルアップのための研修の時間はしっかり確保している。

【質疑応答】

3. (2) 事業実施概要

- (委 員) 今年度男性学の手配がないようだ。父親は2極化傾向であり、男性も多様化している。男性がセンターの講座に来てもらえるような講座、例えば料理教室など企画してほしい。
- (事務局) 今年度はまだ実績はないが実施予定である。対象を悩んでいる。男性の料理教室は各地域で積極的に行っており、センターに全く来ない方に響くような講座にすべきかも含め、検討していく。男女共同参画基礎講座において、男性も積極的に来ていただけるように、経済分野での講座を考えている。ご意見を参考に今後検討していく。
- (委 員) 男性学に関して、性別役割分業を男性から払しょくするのは大事。男女平等を人権の視点、ジェンダーの視点で加害被害者にならないことを基本に、講座を考えないと視点がぼやけ

と思う。

- (事務局) 人権の視点、ジェンダーの視点をしっかりとらえて、講座を企画実施していく。あわせて、気軽に来ていただくような講座の点でも検討していく。
- (委員) 学生や生徒を対象としたデートDV防止講座など、昨年度はかなりの数を実施している。今年少ないような気がするがどうか。他県ではほぼ全部の中学校で、デートDVや性暴力の講座を実施しているところもある。悩みを相談したいと思えるように、積極的に実施してほしい。例えば土曜塾などに働きかけしてもよいと思う。
- (事務局) 今年度7月までの実績で昨年度と比較し若干少ない。重要性は承知しており、今後啓発していく。
- (委員) デートDV防止講座は委託であるが、学生向けの啓発講座は相談員や職員が講師として出向いている。負担が大きいのではないかと。
- (事務局) 相談員は相談業務以外にもネットワーク会議等の企画実施や啓発講座講師として熱心にやってくれている。多忙であると認識しているが、相談員のスキルアップのための研修時間等も確保できており、負担が大きすぎることはないと考えている。
- (委員) 学生向けの講座に高校への啓発がない。市立高校は2校ある。卒業後就職の可能性も高いので労働トラブルの観点からもぜひ働きかけてほしい。
- (事務局) 依頼があれば受ける体制であり、働きかけが足りていない現状がある。就職前のジェンダーの意識改革は重要であり、今後につなげる。
- (委員) 43校区を数年で全部まわる等の見通しがいるのではないかと。女性学級がなくなってきている不安がある。計画的に入ってほしい。
- (事務局) 出前講座についても実情を把握し、こちらから働きかけていきたい。
- (委員) 慣行慣習がネックになっている、しばられている女性が多くいる。基礎講座にその部分を入れてほしい。団体独自の学習会を実施したいが講師が呼べない。団体の自立に向けた市民活動支援の意味での支援制度があれば助かる。
- (事務局) 団体独自の学びへの補助は現状は行っていない。市民公募企画はあるが、公開講座として利用してもらうこととなっている。可能であればこちらでお願いしたい。
- (委員) 起業応援セミナーについて、受講者が起業につながっているか伺いたい。また、就労継続支援講座は今年はないのか。
- (事務局) 見込みは1～2名が起業につながると想定している。講座受講者の中には、すでに起業し更なるスキルアップを考えて受講された方が1名いた。今年度は、起業・就業継続支援を再編し、女性の働き方応援事業と位置付け実施した。まず、女性の自立をテーマにライフプランセミナーを開催し、それぞれの講座につなげるという意味で、起業応援セミナー、就職応援セミナーを実施した。
- (委員) 出前講座のテーマ「キラリ輝く男女の生き方」の内容を教えてください。
- (事務局) 「キラリ輝く男女の生き方」は、昨年度までの名称であり、早い段階で申し込んだ方は以前の名称で実施している。今年度から「くらしのなかの男女共同参画」というテーマにしており、大きく内容が変わったわけではない。
- (委員) 昨年度の運営委員会で、職員の負担が重い等の理由により夜間業務を指定管理者にという話があった。男女平等推進センターは拠点施設なので、事業に力を入れ、その啓発を充実させる必要があると考える。地域への啓発、出前講座は外部講師を考えてもよいのでは。
- (事務局) 地域への出前講座はセンター職員自身の学びにもなっている。様々な業務があるなかでもセンター職員が必要なスキル習得につながると考えている。地域への講座の必要性は委員の皆様も共通認識であると考えている。センター本来の講座はしっかりとやりながらも職

員のスキルアップの視点で出前講座の講師を続けてやっていきたい。

(委員) SNSは有効なツールであると考えてる。SNS上での情報発信を検討してほしい。

(事務局) 若い世代はより有効であると考えてる。久留米市でもラインを活用した仕組みを検討しているので今後前向きに検討していきたい。

(委員) インスタも検討してもらいたい。他自治体では発信してくれる方向けの養成講座もある。

(事務局) 若い世代にひびく講座を取り入れていきたい。

(委員) まちづくり講座は連続講座だったと思うが、少なくなっている要因と3, 4回中止になっているが申し込み状況は？

(事務局) 第1回は被災地へ行き、現場の声を聴く講座としての魅力があったことと、地域コミュニティへの積極的働きかけにより、多くの参加があったが、第2回は報告をまとめる講座であった部分もあり少なかった。第3,4回は中止になったが参加予定者は十数名程度。今回を反省に来年度につなげていきたい。

(委員) 小学生の低学年も託児を受け入れてほしい。児童センターに預けてまでは受講を考えない。30~40代も来やすくなると思う。

(事務局) 課題認識は持っているが、現在未就学児のみで限定している。

【質疑終了】